

平成30年9月7日

報道関係各位

【発掘調査成果説明会】 権現脇遺跡で眉山縄文噴火の痕跡

このたび、深江町の権現脇遺跡の発掘調査成果について、新たな知見が得られました。

権現脇遺跡で多数確認されていた倒木の跡について、調査記録の分析を行った結果、縄文時代の雲仙眉山の噴火活動に伴うものであることが確定的となりました。

また、熊本大学による炭素年代測定の結果、その噴火活動の時期は、今から約4,000年前であることも判明しました。

これらの成果は、雲仙岳の火山活動と島原半島の成り立ち、そしてその火山の上で生活してきた私たちの祖先の歴史を知ることができる貴重なものです。

これに伴い、下記のとおり説明会を開催し、発掘調査成果の公表を行います。

記

- 日 時 9月13日(木)午前10時～
- 場 所 雲仙岳災害記念館(島原市平成町1-1)
- 出席者 南島原市教育長、文化財課長、調査担当者
雲仙岳災害記念館 学芸員 長井大輔
熊本大学大学院先端科学研究部

担当部署	教育委員会文化財課	担当者	本多 和典
直 通	0957-73-6705	E mail	bunkazai@city.minamishimabara.lg.jp
詳しくは 			
担当者 連絡先			



樹木の倒れた方向

根の張っていた範囲

倒木痕



人の立っているところが倒木痕の検出地点(権現脇遺跡M区調査当時)